

加藤裕哉（かとう・ゆうや）

室蘭工業大学 RB 4年

6年ぶりの1部の舞台。コロナ禍に翻弄されて、Bブロックの室蘭工業大の秋季リーグは第3節（11月1日）の北星学園大戦1試合のみとなった。13人で臨むチームを引っ張るのが「5年生」選手のRB加藤だ。室蘭工業大は昨季、4戦全勝で2部を制すると、1部最下位の札幌大との入れ替え戦も28-10で快勝し、6年ぶりの1部復帰を決めた。当時4年生の加藤は、優勝決定戦となった東京農業大戦で逆転の3ヤードTDランを決めたほか、入れ替え戦でも0-10の劣勢から5ヤードTDランを決めて、反撃のきっかけを作った。168センチ、70キロと小柄ながら、小樽桜陽高ラグビー部で鍛えた脚力でFBとして勝負強い走りを見せた。

加藤がアメフト部に入部したのは2年生の4月。大学入学と同時にワンダーフォーゲル部に入ったが、物足りなさを感じていたときに、高校の後輩たちが全道高校ラグビー大会で半世紀ぶりの勝利を挙げた。楕円の球への血が騒ぎ、大学にラグビー部がなかったためアメフト部の門をたたいた。3回目の選手登録だった昨季、初戦の釧路公立大戦で足首を故障して北海道医療大、北海道科学大戦を欠場した。最終戦で復帰したが、不完全燃焼の思いが残った。「3、4年生ともけがで満足にプ



プレーしていない。1部でもプレーしたい」と、大学を留年して、今季もフィールドに立つことを決めた。

「持ち味はダイブラン。体は大きくないがラグビー仕込みで当たり負けしない」と胸を張る。昨季リーグも平均3・6ヤードをゲインした。大学のコロナウイルス対策で練習開始が遅れ、第1節の北海学園大戦を棄権した室蘭工業大。来季を見据え、北星学園大戦ではF Bを3年生R Bに譲り、加藤はT EとL Bでの出場になる見通しだが「攻守でチームに弾みを付けたい。F Bの出番があればしっかりと3ヤードを稼ぎたい」と目を光らせた。

【プロフィール】

1997年4月27日、小樽生まれ。工学部情報電子工学系。好きな言葉は「自由自在」。「システムの中で個性を生かしたプレーを」と後輩たちに助言する。総合格闘家・朝倉未来の理論的な体の使い方にも強い関心を持つ。